

公益財団法人日本対がん協会
活動のご案内
2024-2025



がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい



日本対がん協会公式ホームページ

www.jcancer.jp



日本対がん協会公式X (旧Twitter)

@jcancerjp

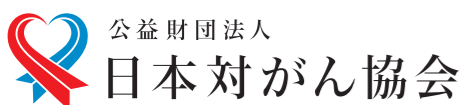


日本対がん協会公式Facebook

JapanCancerSociety



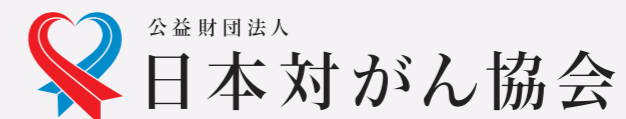
がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

〒104-0045 東京都中央区築地5-3-3 築地浜離宮ビル7階

TEL. 03-3541-4771 平日10時~17時



がんで苦しむ人や 悲しむ人をなくしたい

わたしたちはがん征圧の幅広い活動を通じて

「がんになっても希望をもって暮らせる社会」の実現を目指します



会長からごあいさつ

日本対がん協会は1958年の設立以来66年にわたり、民間の立場でがん征圧を目標にがん予防・がん検診の推進、患者・家族の支援、正しい知識の普及啓発に取り組んでまいりました。これもひとえに日頃から協会を支えてくださる皆さまのおかげです。心より厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行が続いた3年あまりの間には、患者さんが感染の不安から病院受診を控えたり、目標通りの診療を受けられなかったりする事態が起きました。当協会の無料電話相談「がん相談ホットライン」はコロナ禍にある2022年4月から年末年始を除く毎日実施へと窓口を広げ、多くのがん患者さんやご家族から不安の声や相談が寄せられました。がん検診の受診者数は現在もコロナ前の水準に戻っていない状態が続いています。協会発のニュースとして、がん検診や病院の受診者の減少はメディアでも大きく取り上げられ、当協会の活動に対する世の中の存在感は格段に向上しました。おかげ様で寄付や遺贈も増加しつつあり、誠にありがたいことと考えています。

生存率が向上し、「がんは治る時代」と言われるようになってきました。しかし、いまだに「不治の病」というイメージをもっている方も多く、自分がん患者であることを周りに伝えられない人もたくさんいます。そうした方々に生きる勇気と希望を持っていただき、「がん=死」というイメージを変えていくことも、私たちの活動の大きな柱です。

医療の進歩により、がんを超早期に発見し、適切な治療を行うことができる時代も、そこまで来ています。がんは死に至る病から、誰でもかかる可能性のある普通の病気へと変化しています。それに伴い、治療と就労の両立、がん経験者の生活の質(QOL)の向上などの新たな課題が浮上しています。また、がん予防の視点から、禁煙の重要性もますます高まっています。さらに、研究助成やがん遺児奨学金など助成事業にも力を入れてまいります。

時代の変化に対応しながら、がんで苦しむ人、悲しむ人をなくすために日本対がん協会はこれからも全力を尽くします。引き続きあたたかいご支援をよろしくお願い申し上げます。

日本対がん協会 会長

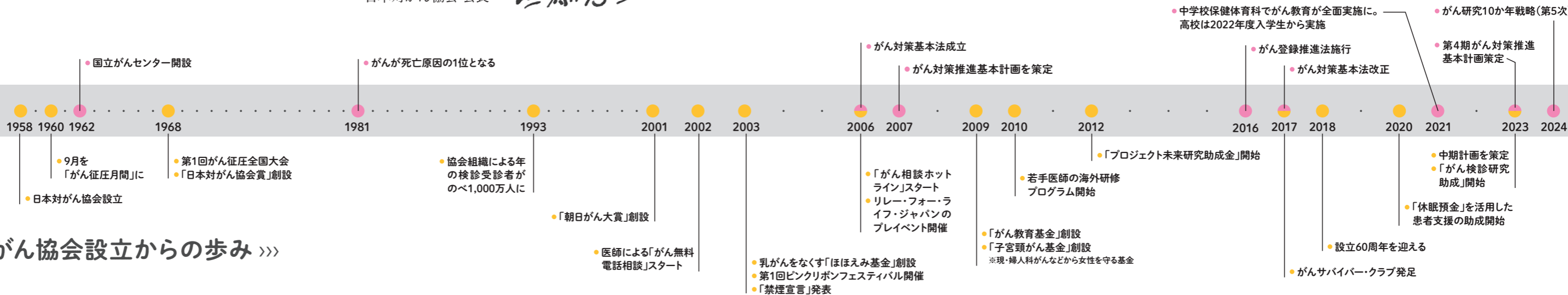
垣添 忠生

わたしたちは大きく3つの活動を行っています



国内の動き

当協会の動き



日本対がん協会設立からの歩み >>>

日本のがんの現状と 新たな課題への対応

新たにがんと診断される人は毎年100万人前後にのぼります。
国の新しいがん対策に基づき、さまざまな取り組みを始めています。

○ 日本のがんの現状

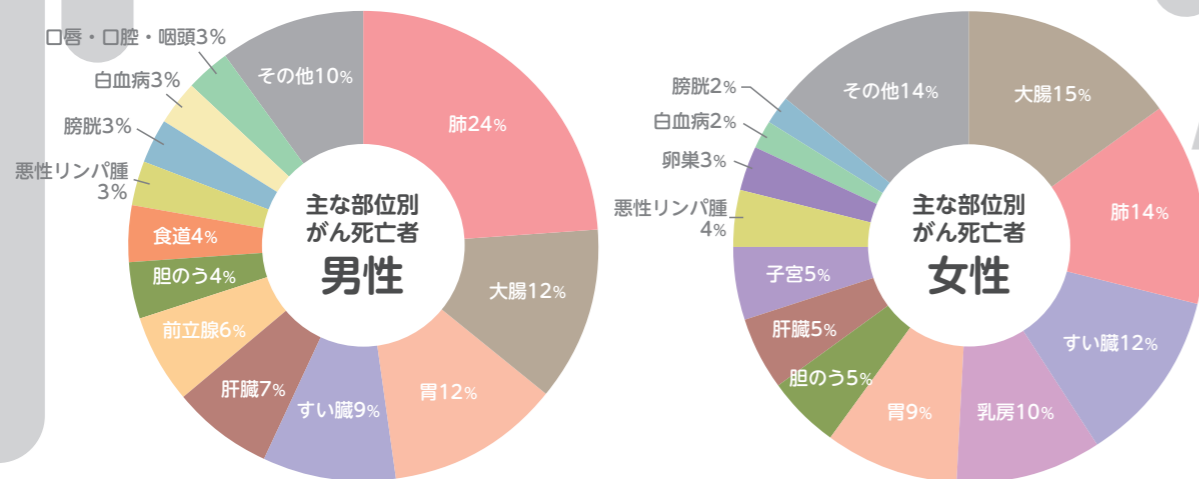
1981年以来、がんは死因の1位です。生涯で2人に1人が罹患し、毎年全死亡者の約3分の1を占めます。主要因は高齢化ですが、禁煙は罹患リスクを抑え、科学的根拠に基づくがん検診は死亡率を下げることができます。

2022年がん死亡者数

38万5797人

男性 223,291人

女性 162,506人



出典：令和4(2022)年人口動態統計(確定数)

○ 誰一人取り残さないがん対策の実現へ

国のがん対策の指針である第4期がん対策推進基本計画の全体目標は「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」です。当協会はこの目標も念頭に置きながら、さまざまな活動に取り組んでいます。がん医療の分野では、地域ぐるみでがん患者・家族を支え、がん征圧をめざすチャリティ活動「リレー・フォー・ライフ」の寄付金をもとに、地域のがん医療の充実を図るために国内の若手医師の海外留学を支援しています。がんをめぐる社会課題に対しては、一般社団法人あしなが育英会と協働してがんで親を亡くしたがん遺児の奨学金を支援したり、貧困などによってがん検診を受けたくても受けられない人たちへがん検診デジタル無料クーポンを発行したりしています。また、がん患者・家族を支える人材を育成し、その活動を支援しています。

○ 新たな課題に対応した対がん活動

国が科学的根拠に基づいて推奨している5つのがん検診(肺、胃、大腸、乳房、子宮頸部)の受診率目標が60%に上がり、受診率向上が課題になっています。当協会は、がん検診研究助成によって、がん検診の質、受診率の向上に資する研究を支援しています。超高齢社会となる中、がん患者の認知症への対応に課題があることを全国調査で示しました。患者・家族の支援活動に取り組む人材育成と支援も行っています。「がんになっても希望を持って暮らせる社会の実現」をめざしてさまざまな課題に取り組んでいます。

がん検診研究助成

がん対策の原点は早期発見であり、がん検診の進展は不可欠です。がん検診技術の新たな開発を目標にした基礎的な取り組み、がん検診の精度や精度管理の問題の検証、がん検診受診を阻害する社会的な要因の分析など、広い分野を対象に2023年度に助成を始め、18人の研究者が受給しました。2024年度は助成額を拡充します。



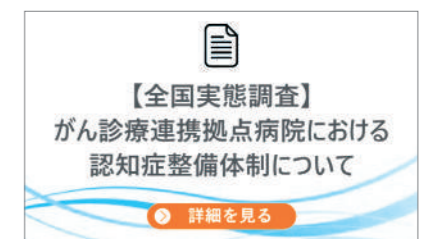
がんアドボケート活動助成

がん患者を支援するためのアドボケート活動に取り組む人材を育成する「がんアドボケートセミナー(ドリームキャッチャー養成講座)」を開催。修了者を対象に社会課題解決へ向けた事業を募り、助成金と当協会独自のリソースを活かした伴走支援によって、さまざまな活動の後押しをしています。



拠点病院の認知症対応調査

超高齢社会を迎え、認知症のがん患者が増えています。がん患者の多くは65歳以上であり、また、2025年には65歳以上の認知症患者数は約650万～700万人との推計もあります。当協会はがん診療連携拠点病院を対象に認知症のがん患者への対応を調査。多くの課題が浮き彫りとなり、メディアを通じて発信しました。



がん予防・ 検診の推進

がん予防のための禁煙を推進し、早期発見のための検診受診率及び精度管理の向上に取り組んでいます



がん予防・
検診の推進

○ 一次予防の啓発

がんを予防するためには、たばこを吸わないことが最も効果的です。がん予防の中心に掲げるのは「禁煙推進」。当協会は2018年、禁煙の重要性を広く社会に訴える「タバコゼロ宣言」を発表しました。日本のたばこ対策は世界的に見て遅れており、早急な対策が必要です。

○ さまざまなアクションの推進

がんの正しい知識を身に付けることも重要です。学校でのがん教育、働く世代を中心に大人を対象にした公開セミナーでヘルスリテラシーの向上を目指します。リーフレットなどの啓発資料、公式サイトなどでも情報発信し、禁煙やワクチン接種によるがん予防と、がん検診受診による早期発見の大切さを訴えていきます。

禁煙でがんのリスクを下げる

喫煙による死亡
年間 **130,000人**

受動喫煙による死亡
年間 **15,000人**

たばこの煙には発がん性物質が含まれています。喫煙者だけでなく、周りの非喫煙者も受動喫煙によって、肺がんをはじめ、さまざまながんの原因となるばかりか、手術や化学療法、放射線療法などの妨げになります。加熱式たばこも同様に健康への悪影響は否定できません。喫煙者は禁煙することでがんの発症やがんによる死亡、その他の疾病のリスクを下げることができます。

タバコゼロ宣言



TOBACCO ZERO MISSION

1. 喫煙者をなくす

すべての喫煙者に対して禁煙支援サービスを提供する

2. 受動喫煙をなくす

すべての人々（喫煙者も非喫煙者も）を受動喫煙から守る

3. 喫煙開始をなくす

すべての子どもたち・大人がタバコを吸い始めない社会をつくる

4. タバコ産業との利害をなくす

すべての協会活動はタバコ産業からの資金提供や協力を受けない

5. 新型タバコをなくす

すべてのタバコ製品は有害性と依存性の観点から規制対象とする

企業の禁煙推進を後押し

がん対策など企業の健康施策、経営課題の解決に役立ててもらおうための無料オンラインセミナーでは、日本対がん協会や東京都医師会などでつくる禁煙推進企業コンソーシアムの米田哲郎事務局長らを講師に迎え、企業などの先進事例を紹介。アーカイブ視聴もできるようにし、健康経営を応援しています。



企業の禁煙推進について議論した第1回がんリテセミナー（2023年2月）

ワクチン接種やがん検診の情報発信

子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルス（HPV）感染を防ぐワクチンの定期接種や2024年度が最終年度のキャッチアップ接種、子宮頸がん検診に新たに導入されたHPV検査単独法など、がん予防・検診の情報を公式サイトから発信。禁煙ポスター、科学的根拠に基づく5つのがん検診（胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部）や女性のがんに関するリーフレットなども制作し、全国の支部や自治体、病院等へ配布しています。

子宮頸がんの予防のために HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチン

25～40歳の女性の
がん死亡数の第2位*「子宮頸がん」。

HPVワクチンによる「予防」と、
子宮頸がん検診での「早期発見」の
両輪で、大切ないのちを守りましょう。

知りたいことがすぐに見つかる！
HPVワクチンについてのQ&A





写真提供：埼玉県支部（公益財団法人埼玉県健康づくり事業団）【同左頁上】

日本対がん協会グループの検診

日本対がん協会は、グループとして日本で最大規模のがん検診組織としての責任を果たすべく、科学的根拠に基づく検診の推進を原則としています。検診についての豊富な情報や正確さを基盤に、大学をはじめさまざまな研究機関・団体での新しい手法や普及啓発法の開発支援に取り組んでいます。

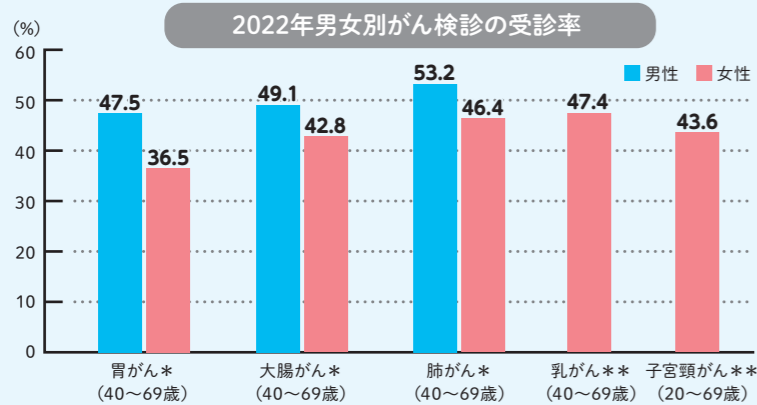


検診車
写真提供：千葉県支部
（公益財団法人ちば県民保健予防財団）

1958年の発足以来の実績
延べ受診者数 **4億人以上**

2022年度の実績
延べ受診者数 **986万5397人**
がん発見数 **1万2083** (がん発見率 約0.1%)

日本のがん検診受診率は、欧米に比べて低い水準にとどまっています。国は受診率を60%以上を目標に掲げていますが、達成しているがん検診はありません。最も高いのが男性の肺がん検診の53.2%で、それ以外のほとんどが40%台にとどまっています。



出典：2022年国民生活基礎調査
*過去1年間の受診率
**過去2年間の受診率

「がん検診年次報告書」の発行

各地の支部が実施するがん検診は、地域の健康を守る大切な役割を果たしているのと同様に、がんに関する様々なデータを収集して、データごとに支部の検診を比較分析し、検診の質の向上につなげるための基盤ともなっています。当協会は支部が実施したがん検診について、受診者数、がんの発見数、精密検査受診率など詳細なデータやその後の追跡調査の結果をとりまとめ、「がん検診年次報告書」を毎年発行しています。



受診率向上や新しい検診手法の開発をめざして

国立がん研究センターや大学などの研究機関と協力し、がん検診の受診率向上や課題の探索、新しい検診手法などの開発に向けた研究助成事業に積極的に取り組んでいます。

がん検診研究助成

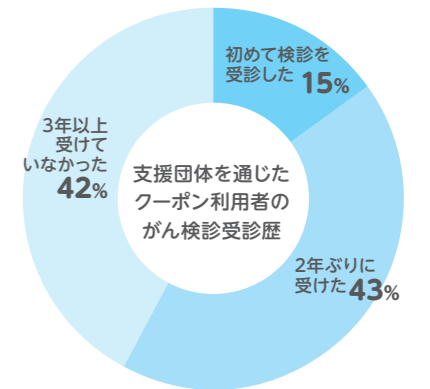
新型コロナウイルス感染症の大流行では、がん検診も大きな影響を受けました。2020年春の第一波以降、政府の緊急事態宣言が何度も発出され、自治体を実施する各種検診も中止や延期を余儀なくされました。当協会グループ支部のがん検診受診者数をコロナ禍前の2019年度と比べると、20年度はマイナス18.1%と落ち込みましたが、21年度はマイナス10.2%、22年度はマイナス9.5%と徐々に回復しています。23年度は新型コロナが感染症法上で「季節性インフルエンザ」と同じ「5類」に引き下げられたこともあり、さらなる受診率の回復が期待されます。当協会はがん検診研究のすそ野を広げるため、23年度に「がん検診研究助成事業」を始めました。「分野Ⅰ・基礎研究」「分野Ⅱ・臨床研究」「分野Ⅲ・がん検診の受診率向上、普及啓発に向けた手法開発、社会調査等」の3分野を対象に公募し、初年度は18人の研究者による研究テーマを採択しました。また、厚生労働省の「23年度がん検診の受診率向上等支援事業」の事業者として採択され、約1700市区町村を対象に全国で研修会を開催し、受診率向上計画作成を支援しました。計画案を提出してもらい、分析などについてのオンライン研修会も開催しました。



受診率向上施策ハンドブック

がん検診デジタル無料クーポンの発行

コロナ禍で減少したがん検診受診者数の回復などを目的に、スマートフォンなどで手軽に取得できるよう従来の無料クーポン券（印刷物）をデジタル化し、2022年度から発行しています。2023年度は貧困世帯やひとり親家庭、非正規社員など、がん検診を受けたくても受けられない方を対象に、支援団体や健診（検診）団体を通じて利用を呼びかけるとともに、当協会グループ支部も独自キャンペーンを実施。併せて支援団体と「がん検診セミナー」を共催し、受診率の向上を図りました。その結果、国が科学的根拠に基づいて推奨している五つのがん検診（乳房、子宮頸部、大腸、肺、胃）で計1767件の発行申請があり、1050件（59%）が利用されました。このうち、支援団体を通じた申請は699件、利用は285件（41%）でした。利用者アンケートの結果から、デジタル無料クーポンががん検診受診の動機付けになった半面、交通費も含めて検討して利用を見送った事例や、「毎年支援してほしい」との要望が複数あったことから、貧困対策に健康面の支援も組み入れなければ受診率は向上しにくいという課題も見えてきました。



がん患者・ 家族の支援

がんになっても安心して暮らせるように、がんと共に生きる社会づくりに取り組んでいます



がん患者・
家族の支援

● 無料がん相談

看護師、社会福祉士、社会保険労務士など有資格者である相談員が、がんに関する不安や悩みに耳を傾け、どうすればよいのかを一緒に考えます。不安な気持ちを誰かに聞いて欲しい、そんなときはわたしたちを頼ってください。

がん相談ホットライン

がんになると、治療や副作用のこと、お金や仕事のこと、毎日の暮らしのことなどさまざまな悩みや心配事が出てきます。がんに関する不安や心配がある方なら、がんと診断されている方いない方、どなたでもご利用いただけます。予約は不要。ご相談は匿名でお受けしています。

理念

日本対がん協会がん相談ホットラインは
相談者の言葉に耳を傾け
相談者が次の一歩を踏み出せるような
支援を目指します

使命

- 相談者が困っていることは何かを一緒に考えます
- 相談者の思いや考え、価値観などその人らしさを尊重します
- 相談者にとって必要で、信頼できる情報を提供します
- 相談者が問題解決できるための行動を具体的に提示します



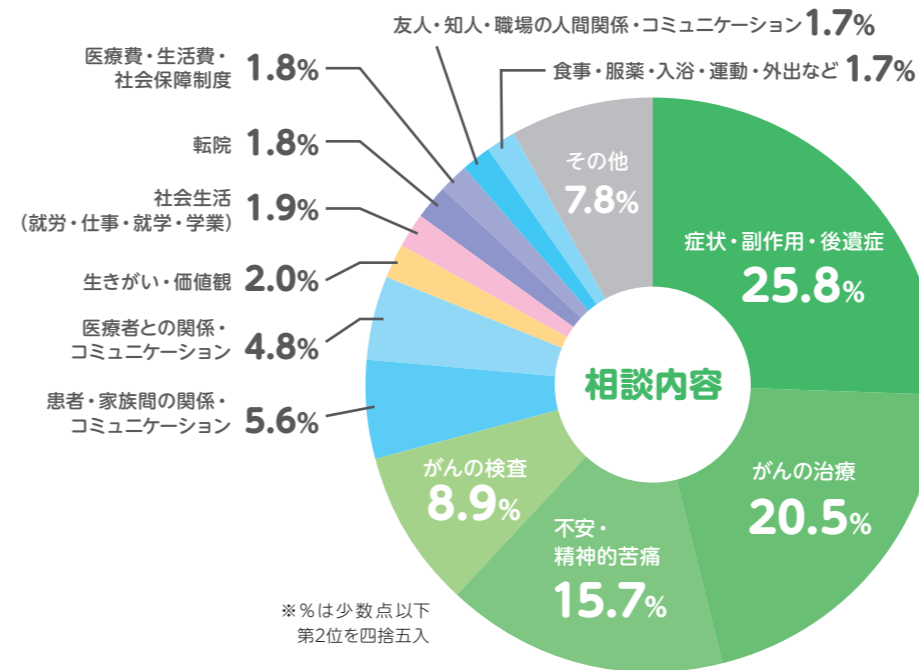
土曜・日曜・祝日も相談をお受けしています

☎ 03-3541-7830

受付日時/毎日(年末年始を除く)、10~13時、15~18時

※受付日時は変更になる場合があります。事前に日本対がん協会ホームページでご確認ください。

がん相談ホットライン相談受付状況 (2024年2月現在)



相談員

看護師、社会福祉士など国家資格を持つ経験豊かな相談員が相談を受けています

2023年度相談件数

10,217件

相談者/患者さん、ご家族、友人など

相談件数10,217件のうち、2回以上利用した人は65.4%にのぼります。相談内容は体のこと、心のこと、暮らしに関わること、がんとの向き合い方やこれからの生き方など、多岐にわたります。そのほか、ご遺族がグリーフケアとしても利用されています。

相談者の声

「がんになると生きることそのものに悩むことがあります。ホットラインはそんな悩みにも寄り添ってくれるので頼りにしています。」

「初めての相談で頭の中が混乱していたけど、ちょっと落ち着きました。相談できる場所があり、今後も相談できると聞いて安心しました。」

「以前から不安な時に何度も利用しています。ホットラインがあることに感謝していますし、救われています。」

社会保険労務士による「がんと就労」電話相談

がん患者・がん経験者の悩みの一つに就労の問題があります。働くことは収入を得ることと共に、自分らしく生きるために大切なことです。利用できる制度をはじめ、がんになっても自分らしく生きがいをもって働けるように社会保険労務士がご相談をお受けしています。



特定社会保険労務士 近藤明美氏



特定社会保険労務士 石田周平氏

電話相談予約窓口





リレー・フォー・ライフ

リレー・フォー・ライフは、がん患者やその家族の支援を目的として、地域全体でがん向き合うチャリティ活動です。日本では当協会がアメリカ対がん協会からライセンスを得て、各地のボランティア実行委員とともに活動しています。コロナ禍を経て、オンラインを活用した取り組みを加えたハイブリッドの開催が広がっています。



3つのテーマに支えられ、使命である**Save Lives**が成り立っています

祝う

Celebrate

がんの告知を乗り越え、今を生きているサバイバーや家族などの支援者を讃え、祝福します。

しのぶ

Remember

がんで亡くなった愛する人をしのび追悼します。また病の痛みや悲しみと向き合っている人々を敬います。

立ち向かう

Fight Back

がんの予防や検診を啓発し、征圧のための寄付を募り、がんで苦しむ人や悲しむ人をなくす社会をつくりまします。

リレー・フォー・ライフのはじまりと日本での広がり

1985年、腫瘍外科医のゴルディー・クラット氏がトラックを24時間走り続け、アメリカ対がん協会への寄付を募りました。「がん患者は24時間、がん向き合っている」という想いを共有し支援するためでした。ともに歩き、語らうことで生きる勇気と希望を生み出したいというこの活動を代表するイベントは、世界34カ国、約2460カ所で開催されています。日本では、2006年にプレ開催（つくば）、翌年には兵庫県芦屋市で公式開催され、活動地区が広がっています。2023年度は、49地区でチャリティ活動が行われました。



リレーイベントの流れ リレー・フォー・ライフ活動の1年の締めくくりとしてイベントを開催します。

開会式・サバイバーズラップ



1周目はサバイバーの方だけが歩きます。がん告知を乗り越え、この日を迎えられることを祝福します。

ルミナリエセレモニー



想いが書かれたルミナリエを灯し、がんで亡くなった愛する人をしのび、がんと向き合っている人々を敬います。

夜越えウォーク(推奨)



ともに歩き続け、朝を迎えられた喜びを分かち合い、朝陽の下で再び立ち向かうことを誓い合います。

閉会式



すべての参加者が讃え合い、次の1年を通して行うチャリティ活動への、新たな想いを胸にします。

RFLセルフウォークリレー

参加者が好きな時に好きな場所で歩いた歩数をスマホアプリに記録、参加費に加え、歩数に応じた金額を協賛企業からマッチング寄付としていただくオンラインチャリティイベントです。RFLの在り方もコロナ禍で変わり、リレーイベントに参加しなくてもできない方々が全国どこからでもがんサバイバーに想いを寄せ、歩くことで参加できる新たな支援活動となりました。2023年度は協会本部に加え、26実行委員会と15企業が参画しました。

参加者数 **4,996人**

歩数 **751,497,548歩**

マッチング寄付額 **26,006,963円**

※2023年度実績。個人寄付額すべての収入を含む



ご寄付の使いみち

ご寄付は、リレーイベントやがん相談ホットラインの運営のほか、がん医療の発展のために役立てられています

マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞

地域のがん医療に貢献できる若手医師育成のため、1年間の海外留学研修費用の一部として1人250万円を助成しています。留学先は、全米有数のがん専門病院であるテキサス大学MDアンダーソンがんセンターやシカゴ大学医学部です。2010年度の設定以来、これまでに21人の若手医師を送り出しました



プロジェクト未来

将来のがん医療に役立つと期待されるがんの基礎研究、臨床研究、患者・サバイバー・家族に関する研究に、1件あたり最大300万円(総額2000万円以内)を助成しています。新しい治療や新薬の開発、また患者のQOL改善を期待しています。2023年度は19人の研究者に助成金をお渡ししました。



デザイン/
名古屋デザイナー・アカデミー
矢野瑞季さん



ブルーリボンライトアップされた築地大橋（東京・中央区）

がんサバイバー・クラブ

全国700万人のがんサバイバー（一度でもがんと診断されたことのある方）が「希望と共に生きる」ことのできる社会をつくることを使命とする事業です。がん患者の「知りたい」「治りたい」「普通の生活がしたい」に寄り添い、大切な人の「支えたい」を実現することを活動テーマに掲げています。



ジャパン キャンサー サバイバース デイ

2018年から毎年6月第1日曜日に「JAPAN CANCER SURVIVORS DAY」を開催しています。がんサバイバーやご家族のためのサポート・工夫に関するさまざまな情報を提供しています。2024年は「がんと診断された方への最初の処方箋ーわたしらしく生きるためにー」をテーマに東京・築地の国立がん研究センターで開催。がん診断から問もない方や治療中の方が安心して治療・療養生活を送れるようになるためのヒントを、専門医の講演や20以上の支援企業・団体がブース出展を通して発信し、約400人が参加しました。



がん患者アドボケート活動を支援

「がんになっても希望を持って暮らせる社会の実現」をめざし、がん患者が直面する問題の解決や、がん医療の現場で何かに取り組みたいと考えている人を対象に問題解決のヒントを学び、自身の課題を明確するための「がんアドボケートセミナー（ドリームキャッチャー養成講座）」を毎年開催。2023年は「最高の医療を引き出すための患者力とは」をテーマに約30人が受講し、修了後に事業を募りました。その中から妥当性や公益性、発展性、社会的インパクト等を考慮し、2024年度は5事業を採択し、計201万円の助成と伴走支援を行います。

がんサバイバー・クラブ
公式サイト



ブルーリボンライトアップ

大腸がん検診の大切さを伝え、大腸がん患者・サバイバーを応援しようと、毎年3月、全国の自治体や民間団体等と連携して啓発活動を行っています。2023年度は自治体の庁舎や橋梁、港湾施設、テレビ塔、病院など、北海道から九州にかけて計14施設と連携し、大腸がん啓発カラーのブルーの夜間照明でランドマークを彩る「ブルーリボンライトアップ」を実施しました。あわせて、特設サイトやSNSなどで、大腸がん患者・サバイバーの体験談や専門医からの応援メッセージを発信しました。



がん患者支援の取り組み

がんで悲しむ人や苦しむ人をなくしたい——
がん患者の方はもちろん、ご家族やご遺族、支援者の方に対する支援にも取り組んでいます。

東北の被災者・サバイバー支援

東日本大震災から12年の節目となった2023年春から初夏にかけて、当協会会長の垣添忠生が東北地方の太平洋岸をたどる自然歩道「みちのく潮風トレイル」を約3カ月かけて歩き、復興に尽くす被災者、がんサバイバーの方たちと交流を深めました。思いもよらずがんに罹患した人と、突然の大地震で被災した人を重ね合わせ、移動中は「がんサバイバーを支援しよう」「3/11を忘れない」という二つのメッセージを入れた幟を掲げるなどして、被災地とがんサバイバーの支援をアピールしました。

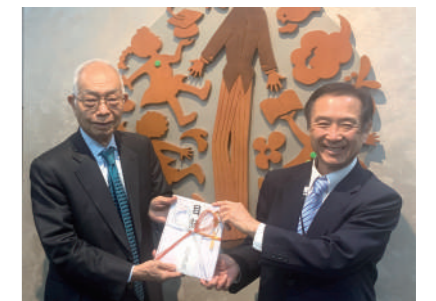


がん患者の認知症をテーマに全国調査

当協会が実施した認知症アンケート調査では、全国のがん診療連携拠点病院のほぼすべて（97.7%）で、認知症患者の対応に困った経験があると回答しました。具体的な事例について、最も多かったのは、医師が治療方針を説明しようと思っても、患者本人が自分の治療について判断できないということでした。また、外来でがん治療を対応しようとしても、在宅での治療を支える家族がいらないという問題も高い割合を占めました。

がん遺児への奨学金支援

がんで親を亡くしたがん遺児の進学などに役立ててもらおうと、2023年度から一般財団法人あしなが育英会と協働して、がん遺児への奨学金支援に取り組んでいます。初年度は助成金として1000万円をあしなが育英会へ贈りました。当協会の中期計画（2023～28年度）の活動指針は「取り残される人への目配りを欠かさず、複数のセクターとの協働で、適切な手法によって課題解決をめざす」を掲げています。取り残される人を一人でも減らすことをめざして、がんをめぐる社会課題へ取り組みます。



正しい知識の普及啓発

情報社会の中で正しい知識を広めるために、普及啓発活動を行っています



正しい知識の普及啓発

○ ピンクリボンフェスティバル

乳がんを命を落とすひとが一人でも減るように、乳がんの早期発見・適切な治療の大切さを伝える、国内有数の規模の乳がん啓発活動を行っています。乳がん検診の受診率向上を目指し、患者さんとそのまわりの人々を支える活動に取り組みます。



シンポジウム・セミナー

最新の治療情報や関心の高いテーマを取り上げるシンポジウム、幅広い世代の女性に向けて乳がんとプレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)についての正しい知識を伝えるセミナーなどの動画を公式サイトから配信しています。



ピンクライトアップ 東京都庁第一庁舎

ピンクの日



ピンクの日

毎月19日を「ピンクの日」とし、プレスト・アウェアネスを推奨するキャンペーンを展開。「ピンクの日」のロゴを使用したSNS投稿や、ピンクにまつわるアクションで、乳がん啓発活動をすすめています。



街頭キャンペーン



知ろう、自分と乳がんのこと。

2021年から「MY PINK ACTION 知ろう、自分と乳がんのこと。」をスローガンに、一人ひとりにあった正しい知識の習得と自分に合った適切な行動を促す活動を開始。賛同企業や団体、インフルエンサーの方々とピンクアクションを実施、発信しています。

ピンクリボンフェスティバル 公式サイト



○ がん征圧月間とさまざまな取り組み

1960年から毎年9月を「がん征圧月間」と定め、がんと、その予防に関する正しい知識の普及、がんを早期に発見するための科学的根拠に基づいたがん検診の受診率向上などを広く呼びかけるため、全国のグループ支部とともに、さまざまな形でがん征圧活動を展開しています。

がん征圧全国大会

全国のグループ支部や患者・支援者らが集まり、最新情報の共有や意見交換をします。新型コロナの「5類」移行に伴い、2023年度の山口大会は4年ぶりに全国から関係者が一堂に会し、がん検診の課題や新たな検査方法についてシンポジウムも行いました。2024年度はさいたま市で開催。

日本対がん協会賞

対がん活動への理解と普及を促すことを目的に、1968年に創設しました。がん予防やがん検診、がんに関する正しい知識の普及などのため、長年にわたり地道な努力を重ねてきた個人・団体が対象です。2023年度は個人の部で4人、団体の部で1団体に贈られました。

朝日がん大賞

日本対がん協会賞の特別賞として、朝日新聞社の協力で2001年に創設されました。当協会の活動の柱の一つである「がん予防」全般を対象に、がん征圧に向けて優れた実績をあげて社会に貢献し、かつ第一線で活躍する個人・団体に贈られます。将来性のある研究の発掘、医療機器類の研究・開発、患者・サバイバーの活動やケアなども対象となります。



朝日がん大賞表彰式(2023年)

2024年度 がん征圧スローガン

「がん征圧標語」として1960年から制定が始まりました。毎年度、全国のグループ支部から募集して制定しています。当協会をはじめ、グループ支部や自治体、医療機関の刊行物や啓発資材などさまざまな媒体に掲載されることにより、がん検診の普及啓発や受診率の向上に活用されています。

がん検診 あなたの暮らしの習慣に

新潟県健康づくり財団・高橋奈津子さんの作品



マンモグラフィ撮影技術講習会 (2023年1月)

がんリテラシーの向上をめざして

がん罹患者の約3割は働く世代であり、若い世代では乳がんや子宮頸がんにより女性が男性を上回ります。さらに定年延長などで就労が増えている高齢層はがんリスクが高まる世代です。がんの正しい知識を入手・活用する能力(リテラシー)を高め、健康全般の意識向上、行動変容につなげることをめざしています。

働く世代のためのがんリテラシー向上プロジェクト

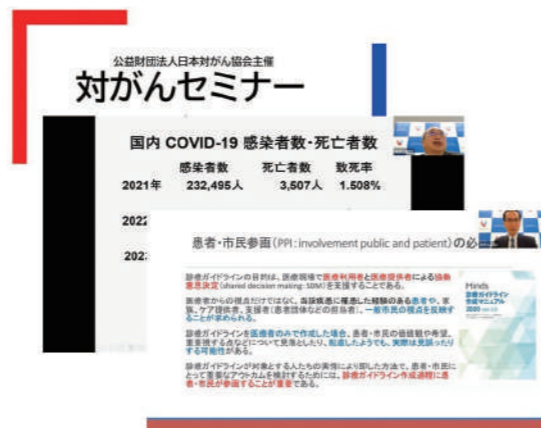
多くの人が65歳まで、あるいはそれを超えて働く時代——。企業にとって、がん対策と従業員のヘルスリテラシー向上は今後ますます重要な経営課題になります。このプロジェクトは、企業のがん対策の底上げを図り、働く世代のがんリテラシーを高めることを通じて健康全般の意識向上、行動変容につなげることを目指しています。その三本柱として、企業・団体のトップや健康経営、人事総務担当者のみなさんを主な対象とする「がんリテセミナー」、がんに関する基礎知識が学べる「がんリテラシーLINE」、会社(職場)単位で申込み有料プログラム「がんリテラシー診断」を展開しています。

特設サイト



対がんセミナー

当協会のグループ支部や全国の自治体、メディア関係者を主な対象にオンラインで開催している「対がんセミナー」では、子宮頸がんを起すヒトパピローマウイルス(HPV)感染を防ぐHPVワクチンと男性への接種の課題、厚生労働省が初めてまとめた「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」等、がんに関する様々な話題を取り上げています。「誰一人取り残さないがん対策」を目指して、がんサバイバーの併存疾患の問題や、がんゲノム医療の課題など、幅広い分野でテーマを選択し、視聴者層も広げていく予定です。



がん教育の推進とさまざまな取り組み

科学的根拠に基づいて、がんを正しく理解することは大切なことです。がんをむやみに怖がることなく、健康と命の大切さを考えてもらうため、子どもたちのがん教育に取り組んでいます。啓発ツールによって、大人もがんについて知ってもらうことで健康に対する意識の変化へつなげます。

がん教育授業に協力

当協会は国に先駆けて2009年に「がん教育基金」を設け、全国の小中高校で出張授業を開くとともに、がん専門医の監修によるDVDやweb動画、まんがなどの教材を作り、学校などへ提供してきました。その後、新学習指導要領に「がん教育」が明記され、2021年度からがん教育の授業が始まりました。当協会は現在、希望する学校に対し、がんサバイバーの職員、がん専門医を外部講師として派遣し、学校でのがん教育を応援しています。



機関紙・啓発ツールの制作

全国のグループ支部の協力による調査の結果、がん関連機関の研究・統計、当協会の活動など最新情報を掲載した機関紙『対がん協会報』をはじめ、がん検診や女性のがんを解説するリーフレット、ポスター、冊子などの啓発資料を制作し、全国のグループ支部や自治体、医療機関、企業の健保組合などで活用されています。がんの基礎知識をまとめたデジタルサイネージ動画や一部の啓発冊子などはダウンロードによる配布もしています。



医療従事者向け研修会

がんの早期発見には、検診の精度管理を上げることも大切です。当協会は、NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構、公益財団法人結核予防会との共催で診療放射線技師研修会や乳房超音波技術講習会などスキルアップの場を提供し、受講生は全国の検診機関で活躍しています。新型コロナの影響もありましたが、「5類」移行後の2023年度は乳房超音波技術講習会を4年ぶりに開催しました。



SDGsと日本対がん協会



日本対がん協会のパーパス

「がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい」は

SDGsの重要なフレーズ「だれひとり取り残さない」と目指す方向が同じです。

SDGsターゲットと私たちの活動

日本対がん協会の活動は、SDGsの9つのゴール、16のターゲットの達成に寄与しています。がん征圧活動は「医療・健康問題」だけでなく、「社会問題」「経済問題」の解決を目指す活動でもあります。

1 貧困をなくそう

- がんサバイバー・クラブ
- がん相談ホットライン
- リレー・フォー・ライフ
- がん検診デジタル無料クーポン発行

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ

5 ジェンダー平等を実現しよう

- がん相談ホットライン
- がんアドボケート活動助成

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

2 飢餓をゼロに

- がんサバイバー・クラブ

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

8 働きがいも経済成長も

- 社会保険労務士による「がんと就労」電話相談
- がんアドボケート活動助成
- がんリテラシー向上プロジェクト

すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する

3 すべての人に健康と福祉を

- がん検診の推進
- がん征圧月間
- 禁煙推進
- がん検診研究助成
- ピンクリボンフェスティバル
- プロジェクト未来
- マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞
- がん相談ホットライン

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

- プロジェクト未来
- マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞
- がん検診研究助成

強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る

10 人や国の不平等をなくそう

- がんサバイバー・クラブ
- リレー・フォー・ライフ
- がん相談ホットライン
- がん遺児の奨学金支援

国内および国家間の格差を是正する

4 質の高い教育をみんなに

- がん遺児の奨学金支援
- がん教育の推進
- 企業のがん対策支援
- 企業向けがんリテラシー診断

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

17 パートナリシップで目標を達成しよう

- リレー・フォー・ライフ
- ピンクリボンフェスティバル
- がんアドボケート活動助成

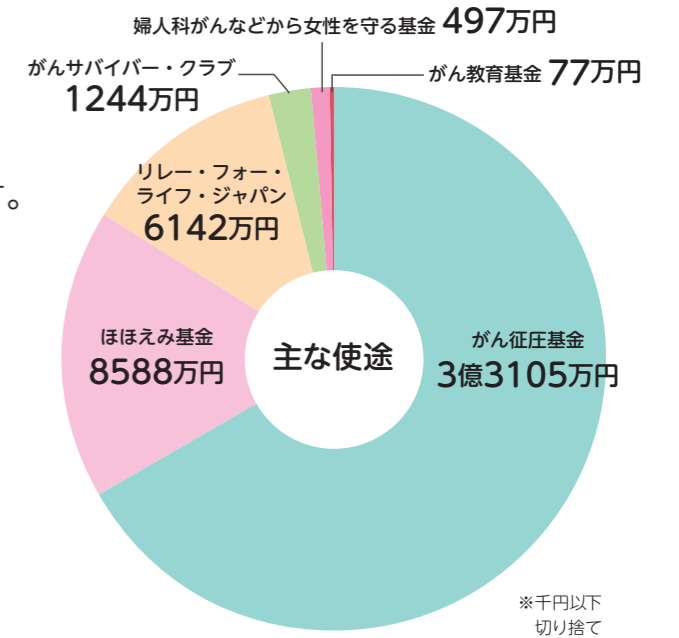
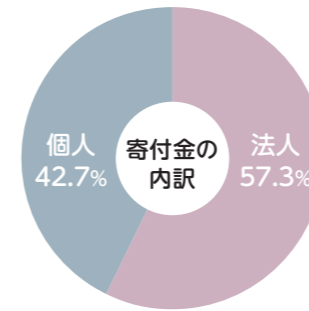
持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

ご寄付について

◎ 寄付額と使途

多くのご支援のおかげで、わたしたちはがん征圧活動を展開することができました。いただいたご寄付はすべて、がん征圧のために使わせていただいております。

2023年度寄付金総額
4億9656万4561円



がん征圧基金……当協会のがん征圧活動全般と運営
ほほえみ基金……乳がんに関わる活動
リレー・フォー・ライフ・ジャパン……がんの研究助成やがん治療専門家の育成など
がんサバイバー・クラブ……がんサバイバーとその家族をサポートする活動など
婦人科がんなどから女性を守る基金……子宮頸がんをはじめ婦人科がんについて、新しい検診方法の調査・啓発活動など
がん教育基金……子どもたちにがんの正しい知識を伝えるための活動

◎ 支援の種類

支援したいと思う活動にご寄付の使いみちを指定することもできます。

| 支援の種類 | 寄付・基金名 | 銀行 | 郵便局 | 口座名 |
|-------------|-----------------------------------|-------------------------------------|--|-------------------|
| 活動全般へのご支援 | がん征圧基金 | みずほ銀行 銀座支店 普通 1003855 (店番号035) | ゆうちょ銀行 00180-1-5140 ※払込票備考欄に寄付・基金名をご記入ください | 公益財団法人 日本対がん協会 |
| | | 三菱UFJ銀行 京橋支店 普通 1718240 (店番号023) | | |
| | がんサバイバー・クラブ | 三井住友銀行 丸ノ内支店 普通 0518150 (店番号245) | | |
| リレー・フォー・ライフ | みずほ銀行 銀座支店 普通 2418773 (店番号035) | | | |
| 特定の活動へのご支援 | ほほえみ基金 | 三菱UFJ銀行 京橋支店 普通 0067244 (店番号023) | | |
| | 婦人科がんなどから女性を守る基金 | 三菱UFJ銀行 京橋支店 普通 0067257 (店番号023) | | |
| | がん教育基金 | | | |

上記の詳しい手続き方法は次ページをご覧ください▶

わたしたちの活動は、みなさまからのご寄付に支えられています。
 がんで苦しむ人や悲しむ人をなくすために、
 “がん征圧活動”へあたたかいご支援をお願い申し上げます。

個人／法人のご寄付

毎月の寄付 ご支援金額は1,000円から、一回の登録のみで継続的な定額支援が可能です。お支払いはクレジットカード決済となります。

今回の寄付 任意の金額をいつでもご支援いただけます。お支払いはクレジット決済または銀行振込みのご利用が可能です。

**銀行/郵便局からの
お振り込み** 事前に、当協会のウェブサイト (<https://www.jcancer.jp/donation>) から「寄付申込書」(個人用・法人用) をダウンロードしてください。必要事項をご記入いただき、下記e-mailまたはファクスで送信後、各金融機関よりお振込みください。
※ご希望の方には、郵便局(ゆうちょ銀行)での振込手数料が免除となる「振込用紙」をお送りいたします。

寄付申込書の送付先▶ **Eメール** kifu@jcancer.jp **FAX** 03-3541-4783

オンライン 日本対がん協会のホームページからお申込みください。クレジットカードまたは銀行振込によるご寄付が可能です。

ご利用いただけるクレジットカード
 VISA/MASTER/AMERICANEXPRESS
 JCB/DINERSCLUB



税制上の優遇措置

- 所得税について**
寄付金総額の2,000円を超えた額について、その年の課税所得から控除されます(年間総所得額の40%まで)。確定申告の際に、当協会からお送りする領収書を添付してください。
- 法人税について**
特定公益増進法人に対する寄付金合計額と特別損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。


寄付特典
ご希望により朝日新聞地方版紙面へお名前、寄付金額を掲載させていただくほか、一定額以上のご寄付をいただいた法人のご名義は、協会ホームページおよびこの冊子に掲載させていただきます。

遺贈・相続財産・香典のご寄付

**遺贈による
ご寄付** 遺言に基づいて特定の個人や団体に財産を寄付することを「遺贈」といいます。遺言書で一部または全ての財産の受取人として日本対がん協会を指定することで、がん征圧活動に遺産を役立てることができます。

**香典・お花料の
ご寄付** 葬儀に寄せられた香典やお花料を社会貢献として寄付することで、会葬者のみなさまに故人の気持ちや人柄を伝えることができます。香典・お花料をいただいた方へのお礼状は、当協会がご用意します。
※相続税控除の対象にはなりませんが、寄付をされたご遺族の所得税から寄付金控除が受けられます。

**相続財産
からの
ご寄付** 相続された財産をご寄付いただくことで、故人のご遺志、ご遺族の思いをがん征圧活動という社会貢献として遺すことができます。



不動産や株式のご寄付

当協会では規定に基づき、不動産や株式など現物資産によるご寄付もお受けしております。所定のお手続きをいただくことで、みなし譲渡所得税が非課税となります。

商品やサービスを通じたご寄付・参加や協力型のご寄付

**スマホや
アプリ**

QRコード決済や、携帯電話料金と一緒に支払い可能なご寄付です。

事例紹介

- ぼちっと募金 (J-Coin Pay/みずほ銀行)
- つながる募金 (SoftBank)
- Yahoo!ネット募金 (Yahoo!JAPAN)

**不要品の
活用**

ご不用になった本や品物などの、買い取りサービスを通じたご寄付です。ご不用品がご寄付にかかわる、エコなプログラムです。

事例紹介

- チャリボン (バリューブックス)
- キモチと。(BOOKOFF)
- お宝エイド (TMコミュニケーションサービス)

**普段の
お買い物**

お買い物ご利用金額に応じた所定の割合を、各社が負担するご寄付です。お客様さまご自身の負担は一切ありません。

事例紹介

- ピンクリボンカード (オリコカード)
- Stellaカード (ライフカード)

**ポイント
利用**

クレジットカードや携帯電話料金など、各企業のポイントプログラムで貯まったポイントを利用したご寄付です。

事例紹介

- dポイント (NTTドコモ)
- Gポイント (ジー・プラン)
- Stellaカード (ライフカード)

**ピンクリボン
商品の購入**

ピンクリボンマークがついた商品や、ピンクリボン自販機での商品購入がご支援につながるご寄付です。それぞれ、売り上げの一部が寄付されます。

事例紹介

- ピンクリボン自販機 (キリンビバレッジ)
- Newクレープ・キチントさんシリーズ商品 (クレハ)
- トイレットペーパー (丸富製紙)

**チャリティ
イベント
参加**

チャリティイベントへの参加やチャリティグッズ購入、設置募金箱へのご寄付でご支援いただく方法です。

協働事業

従業員の寄付に企業が同額寄付を上乗せするマッチングギフトや福利厚生制度による寄付、自社製品やテクノロジーを活用した協働事業でご支援いただく方法です。

企業の特性を生かしたご支援で社会貢献が可能です

商品やサービスを通じた売り上げの一部をご寄付いただく方法や、ポイントプログラム・株主優待などの顧客サービスで、顧客や株主とともにご支援いただく方法、自社の強みを生かしたご支援の方法などがございます。詳しくは、ホームページをご覧ください。



お問い合わせ・資料請求

日本対がん協会 寄付担当

平日10時から17時(土日祝日、12月29日～1月3日を除く)

TEL 03-3541-4771 **FAX** 03-3541-4783

Eメール kifu@jcancer.jp

日本対がん協会寄付WEBサイト

<https://www.jcancer.jp/donation>



ボランティアによるご支援

イベントや冊子発送作業など、当協会の活動はボランティアの方々にも支えられています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

<https://www.jcancer.jp/volunteer>

紺綬褒章

日本対がん協会は、内閣府より公益のために私財を寄付された方へ授与される「紺綬褒章」の公益団体認定を受けております。2020年12月10日以降で、個人の方は500万円以上、団体・企業は1,000万円以上のご寄付をいただいた場合に紺綬褒章授与申請の対象となります。予めお申し出いただいた分納によるご寄付も含まれます。



ご支援をいただいている法人のみなさま

日本対がん協会の活動は、みなさまから寄せられたご寄付により支えられています
今後とも温かいご支援をよろしくお願い申し上げます

朝日新聞

株式会社朝日新聞社

総合教育
生涯学習機関 **ECC**

株式会社ECC

NTT **docomo**

株式会社NTTドコモ

ONO 小野薬品工業株式会社

小野薬品工業株式会社

CANDRIAM
A NEW YORK LIFE INVESTMENTS COMPANY

CANDRIAM

よろこびがつなく世界へ
KIRIN

キリンビバレッジ株式会社

高める、つくる、そして、支える。
熊谷組

株式会社熊谷組

KUREHA

株式会社クレハ

JCR
Pharmaceuticals

JCRファーマ株式会社

SNBL

株式会社新日本科学

あなたの未来を強くする

住友生命

住友生命保険相互会社

ウーマン スマイル カンパニー

senshukai

株式会社千趣会

ソニー生命

ソニー生命保険株式会社

Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社

大樹生命
日本生命グループ

大樹生命保険株式会社

TAIHO 大鵬薬品

大鵬薬品工業株式会社

Takeda 武田薬品工業株式会社

武田薬品工業株式会社

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

株式会社竹中工務店

チェリー・スロッサム
一般社団法人

一般社団法人チェリー・スロッサム

TERUMO

テルモ株式会社

日本医師会
Japan Medical Association

公益社団法人日本医師会

丸富製紙株式会社

丸富製紙株式会社

MUFG 三菱UFJ銀行

株式会社三菱UFJ銀行
三菱UFJ銀行社会貢献基金

明治安田

明治安田生命保険相互会社

明治安田総合研究所

株式会社明治安田総合研究所

RALPH LAUREN

ラルフ ローレン合同会社

RELAY FOR LIFE
JAPAN
CANCER
SOCIETY

リレー・フォー・ライフ全国実行委員会

WACOAL

株式会社ワコール

エフエムジー & ミッション
近畿労働金庫
GAジャパンカンパニー
シャルレ
ジュピターゴルフネットワーク
新川電機

RX Japan
秋田朝日放送
朝日広告社
朝日新聞出版 医療健康編集部
朝日新聞総合サービス
朝日ビルディング
アツヴィ
アナスタシア ミアレ
有馬芳香堂
アルフレッサ ファーマ
イーウェル
イエロー・エンジェル
IZA
伊勢半グループ
一の宮カントリー倶楽部
ヴァンドームヤマダ
栄研化学
エイブル
エーザイ
エクイニクス・ジャパン
SGホールディングス
エモーション
エレクター
おいしい健康
大分大山町農業協同組合
風商事
OLIGHT
荻野屋
オリンパス
尾張車体工業
ガーダントヘルスジャパン
カープスジャパン
鹿児島放送
カナミックネットワーク
カネカ
Calzedonia Japan
関西スーパーマーケット
キムラ工業
キャノン
キューソー流通システム
キューブ
共栄会保険代行
京セラ
栗原
慶友会吉田病院
健美薬湯
興洋海運
国際女性支援協会

スタージュエリーブティックス
高島屋
中外製薬
電通
日本冶金工業
博報堂DYホールディングス

コットン・ラボ
コニカミノルタジャパン
埼玉新聞社
佐川ヒューモニー
サクマ製薬
さくらケーシーエス
サクラファインテックジャパン
サザビーリーグ エーアンドエス カンパニー
三栄製薬
GSIクレオス
CPコスメティクス
ジェイメック
資生堂
資生堂 カメリアファンド
社会保険出版社
ジャノメ
ジャパン・カインドネス協会
城北ヤクルト販売
信託協会
新潮社
鈴乃屋
聖心美容クリニック
生命保険協会
全国銀行協会
仙台銘板
第一生命保険
太平洋クラブ
高室池ゴルフ倶楽部
タッパーウェアブラザーズ・ジャパン
WDI JAPAN
W-harmony
千葉ロッテマリーンズ
中国労働金庫
DINOS CORPORATION
テラスハートジャパン
東京都医師会
東京特殊車体
東京東信用金庫
東京ヤクルト販売
東京リボン
東邦薬品
豊洲市場青果連合事業協会
ドリームフィールズ
長野朝日放送
中野区障害者福祉事業団
長野県労働金庫
名古屋テレビ放送
日刊スポーツPRESS

ハッピージャパン
ブリistol・マイヤーズ スクイブ
ポーラ
ホクト

日本化薬
日本口腔ケア学会
日本証券業協会
日本成人病予防協会
日本ネイリスト協会
日本フィルコン
日本薬剤師会
花みずき葬祭
バリュープランニング
ハローデイ
バンジー
BS朝日
日立保険サービス
フェリシモ
フォーク
富国生命保険
藤井隆広クリニック
ブラザー工業
ポーラ・オルビスホールディングス
北海道キリンビバレッジ
北海道テレビ放送
本町たなか歯科医院
マブチモーター
水谷皮フ科クリニック
三菱UFJインフォメーションテクノロジー
宮城中央ヤクルト販売
宮野医療器
三輪塗装
武蔵野社
ムラコシホールディングス
メドライン・ジャパン
メルクバイオファーマ
山口朝日放送
山星屋
ユニ・チャーム
ライフカード
LINEヤフー
リコー
リビングライフホールディングス
琉球朝日放送
良品計画
ルックホールディングス
レオパレス21
ワイ・ヨット

| エリア | 支部名 | 住所 | TEL | FAX |
|--------|---------------------------------|--|--------------|--------------|
| 北海道・東北 | (公財)北海道対がん協会 | 〒065-0026 札幌市東区北26条東14丁目1-15 | 011-748-5511 | 011-748-5512 |
| | (公財)青森県総合健診センター | 〒030-0962 青森市佃2丁目19-12 | 017-741-2336 | 017-741-2386 |
| | (公財)岩手県対がん協会 | 〒028-3609 岩手県紫波郡矢巾町医大通2丁目1-6 | 019-618-0150 | 019-697-8833 |
| | (公財)宮城県対がん協会 | 〒980-0011 仙台市青葉区上杉5丁目7-30 | 022-263-1525 | 022-263-1548 |
| | (公財)秋田県総合保健事業団 | 〒010-0874 秋田市千秋久保田町6-6 | 018-831-2011 | 018-831-1663 |
| | (公財)やまがた健康推進機構 | 〒990-9581 山形市蔵王成沢字向久保田2220 | 023-688-8333 | 023-688-3734 |
| 関東・信越 | (公財)福島県保健衛生協会 | 〒960-8073 福島市南中央4丁目21-2 | 024-572-3363 | 024-572-7707 |
| | (公財)茨城県総合健診協会 | 〒310-8501 水戸市笠原町489-5 | 029-241-0011 | 029-241-0332 |
| | (公財)栃木県保健衛生事業団 | 〒320-8503 宇都宮市駒生町3337-1 とちぎ健康の森3F | 028-623-8181 | 028-623-8586 |
| | (公財)群馬県健康づくり財団 | 〒371-0005 前橋市堀之下町16-1 | 027-269-7811 | 027-269-8928 |
| | (公財)埼玉県健康づくり事業団 | 〒355-0133 埼玉県比企郡吉見町江和井410-1 | 0493-81-6024 | 0493-81-6747 |
| | (公財)ちば県民保健予防財団 | 〒261-0002 千葉市美浜区新港32-14 | 043-246-0350 | 043-246-8640 |
| | (公財)かながわ健康財団 がん対策推進本部 | 〒231-0037 横浜市中区富士見町3-1 神奈川県総合医療会館内 | 045-243-6933 | 045-243-2019 |
| | (公財)新潟県健康づくり財団 | 〒951-8124 新潟市中央区医学町通二番町13 | 025-224-6161 | 025-224-6165 |
| 東海・北陸 | (公財)山梨県健康管理事業団 | 〒400-0034 甲府市宝1丁目4-16 | 055-225-2800 | 055-225-2809 |
| | (公財)長野県健康づくり事業団 | 〒381-2298 長野市稲里町牧206-1 | 026-286-6400 | 026-286-6412 |
| | (公財)富山県健康づくり財団 [富山県健康増進センター] | 〒939-8555 富山市越川373 | 076-429-7575 | 076-429-7146 |
| | (公財)石川県成人病予防センター | 〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目6 | 076-237-6262 | 076-238-9207 |
| | (公財)福井県健康管理協会 | 〒910-3616 福井市真栗町47-48 | 0776-98-8000 | 0776-98-3502 |
| | (公財)岐阜県教育文化財団 | 〒502-0841 岐阜市学園町3丁目42 ぎふ清流文化プラザ1F | 058-233-5810 | 058-233-5811 |
| | 静岡県対がん協会 | 〒420-0839 静岡市葵区鷹匠3丁目6-3 静岡県医師会館内 | 054-245-5655 | 054-245-5655 |
| | (公財)愛知県健康づくり振興事業団 総合健診センター | 〒470-1101 豊明市香掛町石畑142-20 | 0562-92-9011 | 0562-92-9013 |
| 近畿 | (公財)三重県健康管理事業センター | 〒514-0062 津市観音寺町字東浦446-30 | 059-228-4502 | 059-223-1611 |
| | (公財)滋賀県健康づくり財団 | 〒520-0834 大津市御殿浜6-28 | 077-536-5210 | 077-536-5211 |
| | (一財)京都予防医学センター | 〒604-8491 京都市中京区西ノ京左馬寮町28 | 075-811-9131 | 075-811-9138 |
| | (公財)大阪対がん協会 | 〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69 大阪国際がんセンター 患者交流棟2F | 06-7777-3565 | 06-6585-0353 |
| | (公財)兵庫県健康財団 | 〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-12 | 078-579-1300 | 078-579-1400 |
| | (一財)奈良県健康づくり財団 | 〒636-0302 奈良県磯城郡田原本町宮古404-7 県健康づくりセンター内 | 0744-32-0230 | 0744-32-8664 |
| 中国・四国 | (公財)和歌山県総合健診センター | 〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2 県民交流プラザ和歌山ビック愛5F | 073-435-5206 | 073-435-5208 |
| | (公財)鳥取県保健事業団 | 〒680-0845 鳥取市富安2丁目94-4 | 0857-23-4841 | 0857-23-4892 |
| | (公財)島根県環境保健公社 | 〒690-0012 松江市古志原1丁目4-6 | 0852-24-0013 | 0852-24-0122 |
| | (公財)岡山県健康づくり財団 | 〒700-0952 岡山市北区平田408-1 | 086-246-6254 | 086-246-6258 |
| | (公財)広島県地域保健医療推進機構 | 〒734-0007 広島市南区皆実町1丁目6-29 | 082-254-7111 | 082-254-1168 |
| | (公財)山口県予防保健協会 | 〒753-0814 山口市吉敷下東3丁目1-1 | 083-933-0008 | 083-923-5567 |
| | (公財)とくしま未来健康づくり機構 [徳島県総合健診センター] | 〒770-0042 徳島市蔵本町1丁目10-3 | 088-633-2266 | 088-633-1811 |
| | (公財)香川県総合健診協会 | 〒761-8031 高松市郷東町587-1 | 087-881-4867 | 087-881-8171 |
| | (公財)愛媛県総合保健協会 | 〒790-0814 松山市味酒町1丁目10-5 | 089-987-8200 | 089-987-8250 |
| | (公財)高知県総合保健協会 | 〒781-9513 高知市棧橋通6丁目7-43 | 088-831-4800 | 088-831-4921 |
| 九州・沖縄 | (公財)ふくおか公衆衛生推進機構 | 〒810-0001 福岡市中央区 天神4丁目1-32 メットライフ天神リバーフロントビル2F | 092-722-2511 | 092-722-2563 |
| | (公財)佐賀県健康づくり財団 | 〒840-0054 佐賀市水ヶ江1丁目12-10 佐賀メディカルセンタービル内 | 0952-37-3301 | 0952-37-3061 |
| | (公財)長崎県健康事業団 | 〒859-0401 諫早市多良見町化屋986-3 | 0957-43-7131 | 0957-43-7139 |
| | (公財)熊本県総合保健センター | 〒862-0901 熊本市東区東町4丁目11-1 | 096-365-8800 | 096-368-6776 |
| | (公財)大分県地域保健支援センター | 〒870-0011 大分市大字駄原2892-1 | 097-532-2167 | 097-533-6821 |
| | (公財)宮崎県健康づくり協会 | 〒880-0032 宮崎市霧島1丁目1-2 宮崎県総合保健センター内 | 0985-38-5512 | 0985-38-5014 |
| | (公財)鹿児島県総合保健センター | 〒890-8511 鹿児島市下伊敷3丁目1-7 | 099-220-2332 | 099-220-2883 |
| | (一財)沖縄県健康づくり財団 | 〒901-1192 沖縄県島尻郡南風原町字宮平212 | 098-889-6474 | 098-889-6463 |

●理事

- 代表理事 会長 垣添 忠生 元国立がんセンター総長
- 代表理事 理事長 梅田 正行 朝日新聞社 顧問
- 常務理事 石田 一郎 日本対がん協会業務執行理事
- 常務理事 佐野 武 がん研有明病院 病院長
- 常務理事 中釜 斉 国立がん研究センター 理事長
- 理事 安斎 隆 東洋大学 理事長・セブン銀行 特別顧問
- 理事 茂松 茂人 日本医師会 副会長
- 理事 中村 史郎 朝日新聞社 代表取締役会長
- 理事 藤戸 方人 生命保険協会 副会長
- 理事 山本 真希 資生堂 DE&I 戦略推進部長

●監事

- 茂木 浩一 朝日新聞社 執行役員財務担当兼コーポレート本部財務担当本部長
- 矢野 拓也 公認会計士・税理士

●評議員

- アグネス・チャン 歌手・タレント
- 岸本 葉子 エッセイスト
- 坂下千瑞子 横浜市立みなと赤十字病院 輸血部長
- 佐川 元保 東北医科薬科大学 光学診療部教授
- 佐々木常雄 東京都立駒込病院 名誉院長
- 田尻 泰典 日本薬剤師会 副会長
- 寺光 太郎 朝日新聞社 執行役員経営企画担当
- 中川 恵一 東京大学大学院 医学系研究科 総合放射線腫瘍学講座 特任教授
- 中野 厚夫 予防医学事業中央会 専務理事
- 野田 哲生 がん研究会がん研究所 所長
- 藤澤 武彦 千葉大学 名誉教授、ちば県民保健予防財団 理事長
- 松浦 成昭 大阪国際がんセンター 総長、大阪対がん協会 会長
- 山口 建 静岡県立静岡がんセンター 名誉総長
- 山本 秀樹 日本歯科医師会 常務理事